

公衆衛生の 原点を学ぶ イギリスの挑戦

近代社会の公衆衛生を確立したイギリスでは、第2次世界大戦後、すべての保健医療資源を国営医療制度(NHS)の建設に投入したために公衆衛生体制が弱体化することになりました。しかし、NHS改革が一段落した1980年代に入り、公衆衛生医師をはじめとした専門職の教育訓練システムを整えるなど、公衆衛生制度の再構築に取り組みははじめました。その後健康保護にかかわる「ヘルスプロテクションエージェンシー」の創設(2004)にまで至りました。ヘルスプロテクションエージェンシーの創設は移行措置であり、最終の目的は2013年に創設された「パブリックヘルス・イングランド」であったようです。

イギリスの新しい公衆衛生体制の特徴は、NHSから独立した組織体制としたこと、健康づくりや健康支援活動の主体を「地方自治体」としたこと、全国レベルの公衆衛生専門組織体制を保健省と一体化させたことにあります。イギリスが地方自治体を公衆衛生体制の主役に位置づけたのは実に40年ぶりのことであります。

イギリスの公衆衛生制度を理解するには、公的保健医療制度、一般医や地域の看護職の存在、またソーシャルサービスの体系について理解することが必要です。そこで、本特集ではこの方面の専門家にご解説をお願いいたしました。イギリスとわが国とは単純に比較できません。しかし、本特集はイギリスの公衆衛生制度改革の中に公衆衛生の原点にかかわることが多く含まれると考えます。



イラストレーション：ペドロ山下